桐鈴凛々

第 88 号（祝米寿）
平成 25 年 3 月10日 発 行
発行責任者
社会福祉法人　桐鈴会
理事長　黒岩秩子
南魚沼市浦佐 5142-1
電話　025-780-4118
FAX　025-777-3731
e-mail
suzukake@rose.ocn.ne.jp
http://www17.ocn.ne.jp
/~tourei/

工房とんとん

― 開設に向けて ―

桐鈴会理事長　黒岩　秩子

皆様のご協力により、2月いっぱいで出来上がりました。「森の中のお菓子の家」といった風情で建っています。「工房とんとん」の看板が、1Fの屋根の上の壁に楕円形のチョコレートとしてデコレーションケーキが彷彿するように掲げられています。

・説明会の様子

1月24日、夢草堂で行われた説明会は、空がしばらくぶりで晴れあがって、とんとんを祝福してくれているかのようでした。自分の子どもに利用させたいと思っている親御さんたちがたくさんでしたが、まだ特別支援学校の子どもを持っている若い親御さんや、施設の職員、相談支援センター(魚沼、南魚沼、十日町)の職員、など50人ぐらいでした。精神障がいや、身体障がいの方は、ご本人も何人か来られていました。サービス管理責任者になる予定の佐藤雪江の司会で始まりました。

私が始めに、桐鈴会ができるところから話し、鈴木要吉さんから桐の木のある畑を寄付していただいたので、桐鈴会という名前がついた。ケアハウス、グループホーム（GH）、など高齢者のことをしていたのが、7年ぐらい前から「障がいを持っている人の泊まれるケアホームを作って」と言われたところから、いろいろと見学に出かけて、2年前に障がい者のGHができ、今6人の男性が住んでいます。その中の一人は、精神障がい者で、僧侶なので、このお寺で葬式をするときには、お経を読んでいただきます、と本人を紹介。

「障がい者が、普通に暮らせるような地域を」と活動を始めて40年になりますが、今、このようにそのことの実現に向けて一歩踏み出せたことに感動しています、と結びました。

そのあと、とんとんの管理者星野淳子が、自己紹介をした後、とんとんの具体的な活動の内容を話し、利用してくださる方に合わせて、仕事を探すのが自分の役目。重度の方の「生活介護」については、楽しみがあるように、音楽、絵画など、いろいろなことが得意な方に来ていただいて、一緒に楽しむことをしたい、と話しました。かかる費用は、昼食代毎日300円のみです。利用料はありません、と。

送迎車が、当面はここから10キロ以内まで行くことにします。

次に、すずカフェable(エイブル)について、元鈴懸施設長だった森山里子が「パン作りを勉強して、1年以上になる、そのパンの先生も私もとんとんのパート職員として勤めることにな

桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
～高齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが安心して住める地域を創ろう～

っています。八色の森公園に来る親子連れが来て休んだり、昼食を取ったりできる場所にしたいと考えています」。

そのあと、とんとんの職員になることが決まっている人たち8人を紹介しました。4人が都合で来られなかったので、職員はみんなで12人になります。

質疑応答に入ったら、真っ先に、昨年の12月から南魚沼市教育長になったばかりの南雲権治さんが手を上げました。「この4月から、南魚沼市立の特別支援学校（小中高60人）が始まります。ここの生徒を移動するために大きなバス2台を持つことになりますが、そのバスで八色の森公園に遊びに来て、とんとんのお風呂に入れていただくことはできますか？」

実は、このお風呂なのですが、重度の障がい者が入れる特殊浴槽が、南魚沼市で、当施設ただ一つというのが現状です。それで、南雲さんは使わせてもらいたいと言ったのでした。もちろんどうぞ。

次は、近くにある施設の職員です。「利用料がゼロというのは何故なのですか？」これについては、ほかの施設の方が答えてくれました。「利用料は、介護保険と同じに1割負担なのですが、多くの方が、収入が少ないので、減免されてゼロになるのです」そうだったのかと、私たち一同改めて勉強になりました。

「ショートステイは？」「ケアホームには一部屋作ることになっています」

本当は、夜寝るところと昼間過ごすところは、離れてなくてはいけないということだったけど、最近は、別棟ならば、隣同士でもいいということになって、さらに、今回は、隣のケアホームとの間の連絡通路まで許可されたことを話しました。雪国の特殊性で雪が積もったら、車いすで外を通れないから、ということを理解してもらったのでした。

利用者さんの親御さんから、「畑をするつもりはありませんか？　するようでしたら、お手伝いをさせてください」とのお申し出でがありました。ゆくゆくは畑をしたいものと考えています。

終わってから帰るときに「感動しました」と言ってくれる人がたくさんあったこと。利用申込書をその場で書いていってくれた人もたくさんだったこと、うれしい一日でした。

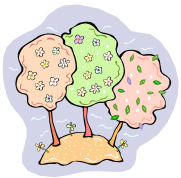
その後、初めてのとんとん職員会議を開きました。志を同じくする人たちの集まりという感じで、オープンに向けてみんなやる気になったようでした。

・とんとんのオープン

4月1日のオープンに向けて、3月には内覧会、パンの試食会を始め、職員たちの研修など、準備期間として活躍してもらいます。「すずカフェable」は、少し暖かくなってからということで、4月20日（土）にオープンします。

6月には、地域の皆さんへの発信として、次のような「オープン記念行事」を企画しています。

・主な記念行事



○田中瑞木展覧会
6月15日（土）～7月28日（日）
工房とんとんにて

工房とんとん内覧会及び試食会開催のお知らせ

期日　３月１６日（土）１７日〈日〉
時間　１０：００～１６：００

工房内はご自由にお入りいただけます。見学後はカフェでパンの試食をどうぞ。

すずカフェ
able エイブル

ランチメニュー
日替わりランチ等各種ランチ
ケーキセット・クッキーセット
お手製の手工芸品も販売予定

4月20日（土）オープン！

田中瑞木さんは、自閉症の画家。以前夢草堂で展覧会をしています。お母さんが、長岡の出身。7月28日の最終日には、これまでも活躍していた前納（まえの）さんのグループが、瑞木さんの世界をテーマにダンスパフォーマンスを夢草堂でしてくださいます。

○「あぶあぶあの奇跡」上映会
6月30日（日）14：00～16：00
さわらびにて

「あぶあぶあの奇跡」は、西宮の知的障がい者の皆さんが、楽団を作っていて、国内のみならず、カーネギーホールにまで行ってミュージカルのコンサートをしている、その27年間のドキュメンタリーです。この映画ができた時、サントリーホールまで見に行って感激してきました。新潟市、長岡市で上映済みです。５００円でチケットを販売します。

※前号でお願いした「正職員募集」は、お蔭さまで**とんとん**と決まりました。次号で、挨拶してもらいますね。

異動する職員の挨拶

桐の花からとんとんへ

グループホームひまわり
サービス管理責任者
（新とんとん管理者）星野淳子

桐の花の初めの一歩は中越大震災という衝撃的な出来事で始まりました。何故か、地震の時の大変さは記憶に残らず、私の大切な思い出は、春の日差しを浴びて、ゼンさん・キミさん・兼光さんがお元気に鍬で畑を耕すお姿です。私のやりたかった介護って、これなんだよなあ！とほのぼのと感じた一瞬でした。そして、瞬く間に八年が過ぎ去りました。ご家族や黒岩先生、訪問看護の高橋さんの協力を得ながら、ほぼ全員の方をお看取り出来ました。時が過ぎても亡くなられた方のご家族が「職員の皆さんの顔を見たかったのよね！お久しぶり！」と立ち寄ってくださいます。なんと介護冥利に尽きる事か！私たち職員の力の源です。

このまま、桐の花のお仕事で定年を迎える覚悟でいましたが、一昨年から障がい者部門が立ち上がりました。大学で学んだ知識は、はるか昔の知識で浦島太郎状態です。錆かかった脳に叱咤激励しながら、毎晩インターネットで新しい知識を学びなおしています。大学卒業時にめざしたかった道は、重症心身障がい児の方たちの介護の仕事だったと言う事もあり「これも何かのご縁！」ともう少し頑張りたいと思います。

新しい部門に関わるご利用者・ご家族の皆様、そして職員、大勢の関係者の皆様、どうぞお力を貸してくださいませ。立ち上げるからには、良いものを作りましょう！

夜勤職員、関勝造（左）の「ヘルパー２級合格」を祝って。

ヘルパーは魅力のある仕事です

鈴懸おはようヘルプ管理者
（新とんとん
サービス管理責任者）
佐藤雪江

もう遠い日のことになりますが、学生時代の、ゼミの先生に「ヘルパーは福祉の総合職だから机の上で授業なんか受けなくてよい、行ってきなさい」と言われ、２週間程新潟市の訪問先を路線バスで回りました。現在は介護保険制度のもとで、整理された体系でサービス提供していますが、そのころは家庭奉仕員と呼ばれて、まさに何でもありの状態でした。驚きと共に、単純に保育士になろうと考えていた私も、偶然が重なり現在ヘルパーをしていることも何かのご縁でしょうね。

ヘルパーの仕事は、利用者さんの暮らしと密着した仕事です。便利さや、合理性を言えばそれ

までですが、その人らしさ、馴染んだ環境で、と言う事を大切にして、相手の方の一番身近なお手伝いができるやりがいのある仕事です。自立支援と簡単に言いますが、説得やお願いで人生の玄人は納得されていません。相手の方の小さな変化に気配りができたり、ささやかなできごとを一緒に喜べたり、そんな日々の積み重ねがとても楽しい毎日でした。この人となら一緒に動いてみようか、と感じていただけるような支援がヘルパーの力量なのだと思います。おかげさまで、抜けた部分の多い私が良きパートナーの仕事仲間に恵まれ、ステーションのメンバーにお守り袋の役目で助けてもらいました。本当にうれしかったです。最後になりますが、利用者様そして各事業所の皆様、ご支援ご指導いただきありがとうございました。

これからは鈴懸の隣に障がいを持つ方のための作業所、工房とんとんが4月よりスタートします。私はそこでサービス管理責任者をさせていただきます。一人一人の利用者さんの思いと、ご家族の願い、関わる職員の視点を大切にしたプランを作って行きたいと考えています。どうぞこれからも宜しくお願いいたします。

南雲たか子さんを語る
―役員を退任されるにあたって―

南雲たか子さんは、私たち夫婦とちょうど同じころ東京から引っ越してきて、夫が医者として赴任した大和町国保診療所の看護師をしていました。その後、ゆきぐに大和総合病院に移り、八色園を経て57歳で退職。

退職後民生委員をしていた時に、桐鈴会の評議員に同じ民生委員だった森和夫さんと共に就任。以来、鈴懸の2か月に一回の血圧測定を今まで続けてきてくださいました。２００４年桐の花ができた時には、パート職員として、週2回入居者に配る薬の世話をしたり、入居者の健康管理をしたりしていましたが、桐の花に萌気園の訪問看護がかかわるようになって、パート職員を卒業。桐の花の職員だったころ、私の母が桐の花に入居者としていて、「同じたか子だし、同じく東京から来た」ということで、南雲さんを呼んでは、内緒話をしていたことを思い出します。

このたび、評議員も、血圧測定も今度工房とんとんに看護師が職員としてくるので卒業したいとのこと。そこで、長年のかかわりを書いてほしいと原稿依頼をしたら、拒否。「では、私がインタビューに行きます」と言うとそれも拒否。「その時留守にしています」と言われたのですが、それでももしやとお宅を訪ねてみたら、ちゃんといらして、中に通していただくことができました。

かつて一緒に仕事をしていた卓夫によると「彼女は、書くことも書かれることも好きじゃない人。無理にしない方がいい」ちょっと強引過ぎたかな？

でも、いろいろと話が弾んで楽しい時間を過ごしてきました。

私「すずかけで血圧測定をしていた時、印象に残ったことは？」

南雲「皆さん個性的な方ですね。斉藤カネさんは、血圧を測っているときに、腕をぎゅっとつねられました。あの方は、小千谷の山谷の方なんですね。そのことがわかってからは、山谷というとご機嫌になるのです」

私「黒岩卓夫の子どもを産んだとおっしゃってね」

南雲「そうなんです。山谷と黒岩先生、と言えば、つねられないことがわかりました。あの方は、皆さんに愛されている方ですね」

南雲さんのご長男と、私の長男長女が同じ年。初めて浦佐保育所に4歳の双子を連れて行った時、南雲正明君が、「でっかい頭だ！」と宇洋のことを評したのが、印象に残っています。以来ずうっと仲良くしていて、今も、応援団で支えてくれています。正明君は、去年、浦佐小学校のＰＴＡ会長として活躍していました。

南雲さん、桐の花の運営委員としてもお世話になりました。ありがとうございました。

（理事長　黒岩秩子）

新入居者紹介

桐の花入居者　尾坂　弘

出身地・年齢・勤めていた頃の思い出は？

小出の生まれで85歳です。長年国鉄に勤めていました。その当時酔っぱらいや泥棒に出っくわしたこと。そんな時には便器を持ち出して対応したこともありました。

入居までの経過は？

妻は母の看病を長年してくれましたが、母の死後認知症となり介護を余儀なくされました。私が家事をしているといつの間にかいなくなって探し回ったり、やっと身支度を整えてやったかと思うと、全部自分でグチャグチャにしてしまったり、その他様々なことがあり大変な思いをしてきました。

娘二人はすでに嫁いでいましたが、買い物やその他なんやかんやと私の支えになり、文字通り家族皆で介護をしてきました。

その後どうされましたか？

私も妻も症状が悪化し、妻は施設に入所しました。その後妻は小出病院に入院しそこで亡くなりました。

桐の花はどうですか？

明るく温かな雰囲気で良いと思います。皆さんも溶け合って喜んでいます。

行事については？

いろいろな催しがあり楽しいです。臼と杵の餅つきを久しぶりに見て嬉しかったです。

（聞き手：グループホーム桐の花　小林登美子）

職員関勝造の鬼と楽しむ尾坂さん

入居者コラム

ケアハウス鈴懸　五十嵐悦子

親　孝　行

〝人類の幸福といっても、母を大切にし、心から感謝するところから始まる〟

恩師の言葉を思い出し、父亡き後5人の子どもを、洋裁学院を経営しながら、人並みに育ててくれた母に心から感謝できたのは、パリで結婚・生活し、電気やガスの手続きに始まり、その他諸々のことに言葉が通じず苦労した時でした。弟に招待され、パリ凱旋門前で撮った写真を大切にしていた母を思い出し、夫が仕事で世界中飛び歩き、留守がちなので母を呼び、一緒にファッションの勉強をと考えていた矢先母の訃報が入り、〝親孝行したい時に親は居ず〟を実感しました。

その後主人の両親をフランスに呼び金婚式を祝ってあげました。私のアートフラワーがパリで好評だったのでご褒美にスイス旅行へ義父母と行って来ました。言葉の通じない老夫婦を迷子にしては大変と神経を使いすぎ、今思い出せるのは登山電車と、マッターホルンの雄大な姿のみです。

異国の地の日本食は最高の贅沢で苦労の連続でした。豆腐はインスタント、鰯を開き天日で干したり、香の物はパンとビールでぬか床を作りました。麺棒で餃子の皮をこねたり、刺身包丁、出刃包丁と調理用具を揃え、料理本と首っ引きで一ヶ月間がんばり、いい嫁だと感謝されました。「どんなことがあっても離婚せず、辛抱してください」と約束させられましたが反故にしてしまいました。

母に「人生何が起こるかわからない」と言われ大学進学をあきらめ、洋裁・シャポー・アートフラワーを学び、豊かな強い人生を歩いて来れたことに感謝。東京で体調を崩し鈴懸に入居して8年目。仏になる道は「経の王」である法華経のみと、亡き両親に朝夕追善回行し最高の親孝行をしております。親孝行の因が最後を飾ってくれると感謝感謝の毎日を過ごしております。

行事フラッシュ　2月

豆まき（節分）

毎年、鬼になり入居者の皆さんから日頃の恨みとばかりに豆をぶつけられてきました。今年は12年に一度の大チャンス。年女の私はにっくき（？）職員の鬼たちに思いっきりぶつけてやろうと心に決めていました。それにはまずは恰好から。テレビでよく見るように豆を撒くときはやっぱり裃（カミシモ）姿！岡田・桑原の元保育士二人がカレンダーで作ってくれました。もう一人の年女、入居者の村山ヨシエさんの背中には富士の写真、私の背中には錦鯉とめでたい手作り裃を着て立派な袴まで用意してもらいました。

今年初めて作ったカミシモをつけて。小林裕子（左）と村山ヨシエさん（右）。

「鬼は外！福は内！」3匹の鬼に入居者30人＋私で一斉に投げつけます。鬼はこっそり逃げて行きました。

（ケアハウス鈴懸相談員　小林裕子）

＊豆まきは2月3日に行われました。

初釜

2月7日、恒例の初釜が行われました。

いつもあでやかな着物姿で、お茶作法を美しく立派にこなしている行方ヒロさん、外山さん、行方弘子さん、それに職員の小野寺。毎年のボランティア本当にありがとうございます。

おいしい抹茶と可愛い花びら餅でのおもてなし、いかがでしたでしょうか。あまりの美味しさに3杯も飲まれた方もいたとか。作法は関係ないところが鈴懸の良いところです。

そんな中、黒岩理事長がステキなお客様を連れて来られました。その方は何と『おひとりさまの老後』でおなじみの上野千鶴子さんでした。「一人で在宅で死ねる場所」探しにこの地域を尋ねて来られたのでした。二人の〝ちづこ〟さんが鈴懸の初釜に花を添えてくださいました。

花びら餅は裏千家の初釜の時のお菓子とか…。上野さんはこう言われながら優しい表情でお茶を召し上がっていました。もちろんもう一人のちづこさんもとても嬉しそうでした。

思い出に残る今年の初釜でした。（ケアハウス鈴懸　岡田としい）

お茶会主催、行方ヒロさん（左）とその隣行方弘子さん。（とてもよく似たお名前ですね）

餅つき

2月10日、今年もボランティア石田茂晴さんファミリーと菜穂路（浦佐の飲食店）さんが、かわいいお孫さんたちを連れて来てくれ、賑やかな会になりました。

〝はんたこ、さらし〟の（元）青年の姿に、桐の花の（元）美女軍団は目の保養になり（？）、一番喜んでいたのは職員と理事長だったかもしれません。

皆で順番に杵と臼を使いついた餅はすべっこくて（なめらかで）おいしかったですね。

毎年お餅を食べる時に思うのですが、職員は喉につかえることが心配で、手袋を片手に見守っていますが、次々と「おかわり」され、詰まることなく食べてくれます。大好物は喉の通りも良くなるのでしょうか？何はともあれ「おいしい」と喜んでもらい大盛況に終わりました。

ボランティアさんに感謝しながら、また来年も楽しみにしていますので、今から予約をお願いしたいと思います。

（グループホーム桐の花　関　和香子）

関光弘（和香子の夫）さんに助けられて。入居者高橋ミヤさん。

「桐鈴凛々」米寿を迎えて

評議員
（「桐鈴凛々」編集長）
井口美賀

「桐鈴凛々」第1号は平成10年8月2日に発行されている。今回88歳の米寿を迎え、ずっと編集のお手伝いしてきた者として感慨深いものがある。

9号までは、A3版一枚（表裏）の新聞だった。当時、理事だった関正太郎さんが編集長で、素朴で力強く、桐鈴会がスタートした当時の、ワクワクするエネルギーのようなものが感じられる。切ったり貼ったり、手書きで枠取りをしたり、当時の新聞作りの楽しさが蘇ってくる。（それにしても、私は発行の2週間ほど前に3番目の娘を出産していたはずで、はたして編集に参加していたのだろうか？）当時、八色の森公園もまだまだ石ころだらけの建設現場で、私の記憶は、その側にある鈴木要吉さん宅の地下ガレージに設置した事務所から始まっている。多分、12月発行の第3号から参加したのかと思う。

平成11年11月からケアハウス「鈴懸」がスタートし、それを機に「凛々」10号からは現在の体裁になった。題字は、前々理事長の滝沢エミカさんの揮毫で、現在も凛々の看板である。

鈴懸事務室のコピー機はそれ以来、凛々発行に大事な一役をかってくれている。現在、800部ほど発行しているが、A4版、平均8ページの紙面に折り畳むのは、施設長を始めとする職員、そして入居者の有志の方々である。本当にありがとうございます。私もごくたまにお手伝いしていたが（いつも行けなくてすみません）、若い頃と違い、指先に油分がなくなり滑って、なかなかうまくいかないものだ。

1年ごとに使う紙の色も変えたりしていたが、やがて写真は2色刷りとなり、63号からはレイアウトを森山芳美さんにお願いして、イラストや見出しもバランスよく、すっかりセンスアップしている。

88号も発行していると、本当にさまざまな方々から、さまざまな内容の文章を寄せて頂いている。この紙幅では一つ一つ触れることができなくて残念だが、バラエティー豊かな紙面だなぁと思う。入居の決心、入居までの人生、季節ごとのイベントに寄せて、また、趣味の披露、そして訃報、追悼などなど。書き手の思い入れがたっぷり詰まっている。それが凛々の通信としてばかりではない、読み物としての魅力なのだろう。

自分のことを振り返れば、新聞のごく初期に、私は「お年寄りも放課後の学童も障がい児者も一緒に集まれる場所」が作りたいと書いている。それから「私のタクラミ」というタイトルで、障がい者関係の事業をするまで桐鈴会を離れないぞ、なんて言っている。

今年4月から始まる障がい者の作業所「工房とんとん」や、まもなく着工するケアホームのことを思えば、そのタクラミはようやく実ったのだなぁと、はるばる来たような感慨がある。まだ子どもも幼く、障がい者の長男も思春期で心身ともに不安定だったこの期間は、積極的に鈴懸に関わることもできなかった私だが、（ひとえに、理事長を始め、現在「とんとん」に中心的に関わってくださる方々の実行力のお陰である。）唯一、鈴懸と関わることができたのがこの「桐鈴凛々」の編集作業だった。折に触れてケアホームにまつわる記事を書かせてもらえたおかげで、夢を持ち続けることができた。

「凛々」50号で、当時、編集委員だった黒岩現理事長、広田前施設長と私の3人で、夢草堂で対談している。これから2年後には100号を迎える。その時にも、なにか記念の企画ができればいいなと思う。

その頃には事業もさらに広がり、凛々は今の8ページで収まってくれているのかな。収まり切らないくらい、皆さんの思いを載せられる凛々でありたい。

職員勤続10年表彰

桐鈴会には勤続表彰制度があり、10年ごとに表彰されます。昨年は、**森山栄子・鈴懸おはようヘルプ副主任（3月から主任）**が表彰されました。表彰式の際に同僚から寄せられた温かいメッセージを紹介します。

ケアハウス鈴懸に入社して、すぐにもう何年も勤めたかのような貫禄を見せた栄子さん。楽しく一緒に仕事をさせてもらっていたのに、異動の話を聞いた時は毎晩枕をぬらしていました。

ビールを飲むために素材の味を生かし、何でも電子レンジでチン！の料理しかしていなかった栄子さんが、ヘルパーに異動になったばかりは、外に出ても帰って来るのが遅く心配していました。今はすっかり慣れたようす。いつでもお嫁に行けますね。

栄子さんのコミュニケーションは直球型なので、いつ超速球があたってくるかいつも心配していました。でも、正直できちんと正統派のやり方を崩さない一面は、羨ましく思う時があります。

これからも、栄子さんのそんな良さを生かして長～く鈴懸に貢献してください。

桐鈴会職員親睦会
小林裕子・佐藤雪江より

桐鈴川柳

鬼の面　自分の面と　比べてみ
針供養　千人針を　思い出す
井口末作

鬼の面　はずして父さん　上機嫌
チョコが出て　よかったと
お茶をくむ
愛妻家

表は鬼　裏は仏　明と暗
如月の　戦中にとびだし兵
今は靖国
鈴木スミ

寒がりの　じじいが重ね着
七重八重
七重八重

梅まつり　いつのことやら
雪一丈
井上信吉

鬼を出し　福だけほしい
老い二人
豆を撒く習慣もなし　鬼の孫
うらさめめよし

冬将軍　もう帰ってください
立春です
細雪　こんなに降ったか
もういらぬ
にゃんこ

お知らせ

桐鈴会顧問弁護士

理事長の次女海映さんの夫渡邉真一郎さんが、この1月、南魚沼警察署の北隣のビル2Fに六日町法律事務所を開設し、桐鈴会の顧問弁護士となりました。法律相談などにご利用ください。電話番号は、025(788)0241です。

編集後記

今年の冬も大雪でしたね。雪の降り続く窓の外を眺めては、早く春が来ないかと溜め息をつく毎日です。

しかし近頃は、少しずつですが春の気配を感じ取れるようになってきました。日の入りが遅くなり、まだ明るさを残す夕方を見ると、季節の変化に驚きつつも嬉しさを感じてしまいます。

雪国の冬は本当に大変で、雪国に生まれたのだから仕方ないと諦めつつも辟易してしまいます。ですが、そんな苦労の末に訪れた春の嬉しさといったら！

天気予報では雪だるまマークが続き、まだまだ本格的な春は来てくれないようですが、「今日は青空で気持ちがいいね」「日差しが暖かくて春が近いかな」とご褒美のような小さな変化に幸せを感じている日々です。

そして4月、工房とんとんがオープンの運びとなります。小さな芽が蕾となり、いよいよ開花しますね。桜の花に負けないくらい、たくさんの笑顔が咲きますように。（上村久美子）